

本日会場ロビーにて販売しております

エッセイ集

「ギターは小さな星の
オーケストラ」

文芸社 2001

税込価格 1,470 円

限定 10 冊



サウンド オブ ザ ギター 2

限定 5 枚 税込価格 3,000 円



サウンド オブ ザ ギター 3

限定 15 枚 税込価格 3,000 円



松田晃演さんは若くしてアンドレス・セゴビアに師事し、国際ギターコンクールでの入賞や数々の海外、国内演奏ツアーを経験。中でもカーネギーホールのリサイタルは、NYタイムズ紙が絶賛を惜しまなかったものだ。最新のCDとしては、「サウンド・オブ・ギター3」を私の推薦盤として各方面に紹介させて頂いている。この流麗緻密なサウンドはほんとに癒されるだけでなく、また大いにやる気を出させ、励まし系ともいえるものだ。ギターの音は小さい、けれども多彩でダイナミズムに富む表現力は百人のオーケストラに負けない、と私は思う。クラシックギターを最高の弦楽器と確信する松田さんのテクニックと音色は年齢とともに深みと輝きを増し、心の琴線に訴えかけてくるようだ。

オーディオ評論家：林 正儀

松 田 晃 演 ギターリサイタル



期日 2005年1月21日（金）

開演 午後7時

会場 バレット市民劇場

主催 オージス～OAGS

（Okinawa Art Guitar Society）

<http://nakagusuku.cool.ne.jp/oags/>

Program

Pavanas N0.2,4,6 パバーナ No.2, 4, 6

Luis Milan ルイス・ミラン

Folia with Variacione & Canarios フォリアと変奏とカナリオス

Gaspar sanz ガスパル・サンス

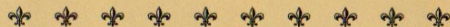
Variations on the Theme by Mozart モーツァルトの主題による変奏曲

Fernando Sor フェルナンド・ソル

1)Prelude 4)Saraband 5)Bourree 6)Jigue 1)前奏曲 4)サラバンド 5)ブーレ 6)ジーク

from Cello suite N0.3 チェロ組曲 3 番より

Johann Sebastian Bach ヨハン・セバスティアン・バッハ



Preludo N0.24 & 5 24 の前奏曲集より No.24 & No.5

Schrzino Mexican Prelude from J.S.Bach メキシコ風スケルツォ、バッハの前奏曲

Prelude & Jigue from Suite Classica 古典組曲より前奏曲とジーク

Manuel Maria Ponce マヌエル・マリア・ボンセ

Hommenaje a Francisco Tarrega タルレガ賛歌

(Garottin & Soleares) (ガロッティンとソレアレス)

Joaquin Turina ホアキン・トゥリーナ

Sanatina ソナチネ

1)Allegretto 2)Andante 3)Allegro 1)アレグレット 2)アンダンテ 3)アレグロ

Federico Moreno Torroba フェデリコ・モレノ・トロロバ

Sevilla & Asturias (Legend) セヴィーリヤ、アストゥリアス (伝説)

Isaac Albeniz イサーク・アルベニス

使用ギター アントニオ・デ・トーレス (1817 ~ 1892)

曲目解説

加藤 法壽

◆ルイス・ミラン (1500 ~ 1562)

スペイン、ヴァレンシア生まれの宮廷音楽家。1536 年「エル・マエストロ」と題された指弾きビウエラ曲集 (2 巻) を出版。献呈者はミランの良き理解者ボルトガル王ホアン 3 世。スペインで印刷された最初の独唱歌曲集であり、ルネサンスの楽器教則本の中で優れたものである。第 1 巻にはビウエラ独奏曲、第 2 巻にはビウエラ伴奏による歌曲が収められている。また宮廷での礼儀作法を学ぶための教科書である『宮廷人』(1561) を著した。

●パバーナ

「エル・マエストロ」第 1 巻所収の「六つのパバーナ」から、No. 2, 4, 6 (セゴビアによる番号。彼は、元の配列を 1, 6, 3, 5, 2, 4 の順に、組曲風に並べ替えて番号付けしている。したがって原曲の 6, 5, 4 曲にあたる)。パバーナは、16 世紀初頭の宮廷舞踊、語源は北イタリアの古都パドヴァ (古名は Pava) で、pavana および padoana はその形容詞にあたる。すなわち「パドヴァ風舞曲」の意味で、パドヴァーナ padovana と呼ばれる。優雅でゆったりとした 2 拍子 (初期には 3 拍子もある。No. 2 がそうである)。従来のスペイン語の孔雀 pavon に由来するという説は後世の俗説。

◆ガスパル・サンス (1640 ~ 1710)

スペインの作曲家、ギタリスト、オルガニスト。スペイン・アラゴンのカランダに生まれ、サラマンカ大学で神学を学ぶ。後に、イタリアで音楽を学ぶ。1674 年「ギター教則本」を出版。同時代にフランスのド・ビゼー、イタリアのコルベッタがいる。マドリードに没する。以下の曲は、「ギター教則本」に所収のものである。

●フォリア

イベリア半島起源の、3 拍子の落ち着いた舞曲。和声進行だけでなく、旋律が定型化されたことが特徴である。欧州各地で愛好される。いくつかの定番の旋律があり、「スペインのフォリア」と呼ばれるものは、古くはコレリ、新しくはボンセによって変奏曲の主題に用いられている。

●カナリオス

カナリア諸島の原住民の踊りをまねたもの。8 分の 6 拍子。強拍にしばしば付点音符が現れるのが特徴。本曲はロドリーゴの「ある貴紳のための幻想曲」第 4 楽章に用いられている。

◆フェルナンド・ソル (1778～1839)

スペイン・バルセロナ生まれのギタリスト兼作曲家。「黒いマリア像」で知られるモンセラート修道院で音楽教育を受ける。オペラや器楽曲を残す。軍人の経歴を持ち、スペインのほぼ全土を支配したナポレオンに従い、故国を離れる。その後パリ・ロンドンを中心に、ベルリン・モスクワ等を訪れギタリスト・作曲家として名声を博す。一人娘に先立たれ、傷心のまま喉頭癌でパリに没す。彼の作品は今日においても、ギター史上、正統派古典の地位を占める。

●モーツァルトの主題と変奏 (Op. 9)

人気オペラである「魔笛」はお馴染みの旋律の宝庫。これを素材にベートーベン はチェロとピアノのために、異なる主題で二つの変奏曲を作った。第1幕第17場、捕われの身のパヴァーノが鳴らす魔法の鈴。その音に酔ったモノスタスと下僕が見張りを忘れて歌う (なんと素晴らしい響き) を主題に、五つの変奏とコーダからなる。軽快で華麗な曲。

◆ヨハン・セバスティアン・バッハ (1685～1750)

バロック時代の大作作曲家。多くの音楽家を輩出した一族に生まれる。ヨハン・セバスティアンは中でも傑出しているので大バッハと称される。セゴビアはその偉大さをヒマラヤ山脈に讃えている。ワイマールでは宮廷礼拝堂オルガニストとなりオルガン曲の大方を書く、ケーテンでは宮廷楽長となり「ブランデンブルク協奏曲」など器楽曲の傑作を生む、終焉の地ライプツヒでは聖トーマス教会カントールとなり、「マタイ受難曲」などの教会音楽の傑作が誕生する。

●「無伴奏チェロ組曲第3番ハ長調 (BWV1009)」より

各曲の特徴は、

- ・前奏曲 組曲の最初に置かれ、導入的役割を果たす。
- ・サラバンド バロック時代に流行した、3/4拍子、または3/2拍子のゆったりした速度の古典舞曲。高貴で荘重な表情を特徴とし、弱起を用いないのが通例で、しばしば第2拍に長い音符をおき、アクセントがつけられる。
- ・ブーレ バロック時代のフランスの宮廷舞踊と、その音楽、ならびにそれを様式化した舞曲。ルイ14世のころには宮廷舞踊として大いに流行する一方、オペラやバレエにも取り入れられた。舞曲としてのブーレもまた、一般に中以上の速さの2拍子系 (2/2拍子、ときに4/4拍子) で、多くは4音符一つの弱起をもつ。2つのブーレがI-II-Iと組んで奏されることも多い。楽句は通常4小節単位の構成をとる。
- ・ジグ バロック時代に流行した急速で躍動的な舞曲。複合2拍子が一般的。古典組曲では最後に置かれる。

ジャック・デュアートによってハ長調に編曲された。これに松田氏が独自の改変を加えている。

◆マヌエル・マリア・ボンセ (1882～1948)

「近代メキシコ音楽の父」と呼ばれている。二度の渡欧の後、国立メキシコ音楽院の要職に就く。セゴビアとは、1923年のメキシコ公演の知り合い、以降親密な交際を続ける。彼の依頼により、協奏曲を含む多くのギター曲を作る。

●24の前奏曲より。No.24 & No.5

長短24の調による作品。内12曲がセゴビアの編集で1930年にショット社から、全曲がアルカサルスの編集で1981年にテクラ社から出版されている。

●スケルツィーノ・メヒカーノ

メキシコ風小さなスケルツォの意。元はピアノ曲 (1909年)。アリリオ・ディアス編曲。二長調。楽譜の冒頭に“A Clema”とあり、1917年にボンセの妻となる仏系の歌手Clementina Maurelに献呈されている。楽譜は8分の6拍子だが旋律が時々4分の3拍子になる。これは中南米音楽の特徴である。

●バッハの前奏曲

「無伴奏チェロ組曲第1番ハ長調 (BWV1007)」の第1曲。二長調に編曲。編曲というよりむしろボンセ作の、ギターによるバッハ讃歌であると、松田氏は年来主張されている。

●古典組曲より前奏曲とジグ

セゴビアの「バッハの様式」という依頼により作られる。クライスラーの偽作に倣って、S.L. ヴァイス名義で発表された。ハ短調。1. 前奏曲 (プレリュード) 2. アルマンド 3. サラバンド 4. ガボット 5. ジグからなる。幻想的な前奏曲と躍動的なジグの組み合わせで演奏されることが多い。

◆ホアキン・トウリーナ (1882～1949)

近代スペインの代表的作曲家。オペラ以外の多方面にわたる作品を残した。「近代スペインの音による風景画家」の異名をとる。ファリャとはマドリッド音楽院以来の親友であり、共に今世紀前半のスペイン楽壇を主導した。ファリャがギター曲「ドビュッシー讃歌」(1920)を作曲したのを見習って、ギター曲の作曲に取り掛かる。ギター曲は1923年から1932年の間に6曲作曲。残念ながら、先駆けたファリャのギター曲は、この「ドビュッシー讃歌」一曲を残すのみである。

●タルレガ賛歌 (ガロッティンとソレアレス)

アンダルシアの舞曲の形式を借りている。Op.29 (1923)。ガロッティンは北スペイン発祥の舞踊で19世紀末に流行した。2拍子系で非常に陽気な曲調。調性は必ず長調である。かつて聖ヨハネ祭の時に小さな棒 (=ガロッティン) を持って踊った群衆と関係しているのではないだろうかといわれている。ソレアレスは (孤独) を意味し、3拍子の哀愁を帯びて感傷的ながら情熱的な部分も持つ。

◆フェデリコ・モレノ＝トロバ (1891～1982)

マドリッド音楽院に学ぶ。サルスエラ (会話をまぜるスペイン風オペラ) の音楽監督・指揮者を長く勤め、多くの当たり作を作る。「当代一流の作曲家にギターの新曲を」というセゴビアの作曲依頼に応えた初めての人物。記念すべき第一作は「舞曲ホ長調」(1919)。以来多くのギター曲を書き続ける。セゴビアより2歳上で共に90歳を超えても現役で活躍し、生涯親友であった。

●ソナチネ (イ長調)

1、アレグレット 2、アンダンテ 3、アレグロ

小さなソナタの意。モーリス・ラヴェルに「天賦の才能とともに若さがなければ書けない作品」と高く評価された。

◆イサーク・アルベニス (1860～1909)

スペインが生んだ天才作曲家・ピアニスト。スペイン北東部のカンプロトンに生まれる。早熟の天才で、4歳で初めての演奏会を開く。少年の頃より、ピアノの腕前を頼りに国内外を放浪し、ライプツィヒ、ブリュッセルで音楽を学ぶ。結婚を機にマドリッドに住む。ロンドン、パリに居を移し、ダンディ、ショソン、フォーレ、デュカスと交流する。晩年の12曲から成る組曲「イベリア」は、スペイン音楽のみならず、近代ピアノ作品の最高峰の一つとも言われる。南フランス、スペインとの国境に近い、ガンボ・ル・パンで、腎臓病 (ブライト氏病) で亡くなる。

●アストゥリアス (伝説) (セゴビア編)

組曲「スペインの歌」(Op. 232 1890) の第1曲で「前奏曲」と名付けられていた。全8曲中4番から7番が未作の「スペイン組曲」(Op. 47) の第5曲に出版社が転用した際、この題が付けられた。アストゥリアスはスペイン北部の州名であるが、曲想はアンダルシア風である。

●セヴィーリャ (リョベート～セゴビア編)

地名を曲名とする「スペイン組曲」(Op. 47 1911) の第3曲。アンダルシアの都セビリャの華やかな祭りの日々の情景を描いた曲。明るく躍動感あふれるリズムはセビリャの民族舞踊「セビリャーナ」による。

著書「最新ギター教本」I & II (音楽之友社)、「ギター完全独習」(日本文芸社)

エッセイ集「ギターは小さな星のオーケストラ」(文芸社)

レコード「松田二朗バハをひく」JX-19、「ブラテローと私」JX-20

「日本の歌」石田一郎 作編曲 OS-10126

「The Classic Sound of the Guitar AKINOBU MATSUDA」Argo Decca ZDA205 London

「Sound of the Guitar」ARM レコード 3001, CD レコード「Sound of the Guitar2」

「Sound of the Guitar3」ARM レコード 3003

教室 東京・大阪・姫路

Profile

◆国際テデスコ協会名誉会員 松田晃演 (旧名二郎)

1957 神戸大学卒業。「ギターの友」新人音楽賞を受賞。

1959 来日中のアンドレス・セゴビアに認められ、翌1960年渡欧。スペイン・イタリアにてセゴビアに、また彼の推薦によりイギリスでジョン・ウィリアムスの下で学ぶ。

1961 スペインのオレンセで開かれた国際ギター・コンクールで第3位入賞。

1962 渡米。十数都市で演奏、ラジオ・テレビなどに出演。5月に帰国、大阪及び東京での帰国記念リサイタル。

1963 神戸労音でロドリゴ作曲のアランフェス協奏曲と同年来日したジョン・ウィリアムスと二重奏によって1963年度関西クリティック・クラブ賞を受賞。

1964 再度招かれて渡米、各地で演奏、ヨーロッパに渡り、帰途シンガポール及び香港にてリサイタル。

1969 11、12月カーネギー・ホールを中心として、アメリカ各地及びカナダ・ロンドンでリサイタルを開き絶賛を博す。

1973 1、2月ウィグモア・ホールを中心としてイギリス各地でリサイタル及び放送に、又パリ放送に出演、絶賛を博す。イギリスにてアーゴ・デッカーレコードに録音、発売される。

11月ノルウェーの音楽祭に出演。

1974 2月ホンコン音楽祭に出演後、イギリスで演奏。

1975 7月アルハンブラ宮殿におけるセゴビアの音楽映画撮影にカメラ及び、マイクテスト代役として参加。

1979 2月国際カステルヌーヴォ＝テデスコ協会の名誉評議委員に推薦される。

1982 4月よりNHKテレビ「ギターをひこう」の講師を担当。

1985 4月姫路市文化賞を受賞。

1989 7月スペイン国際ギターコンクール「アンドレス・セゴビア」の審査員として渡西。

1990 5月野鳥保護と自然環境保全を訴え、セイフ・ザ・バード・コンサートを開き、北海道のタンチョウヅル保護のための基金を寄贈。

1992 SIMIZU MUSIC COLLECTIONでアランフェスの協奏曲 一大阪センチュリー交響楽団。

1993 東京・大阪で本荘玲子とボンセのギターとハーブシコードの為にソナタを共演。CD作成 (SOUND OF THE GUITAR 2) 発売

1995 ギターと影絵 (藤城清治)、朗読 (八千草 薫) によるブラテローと私の公演。

1996 ミュンヘン市立博物館とその他でコンサート。

2003 CD作成 (SOUND OF THE GUITAR 3) 発売。